



2007～2008年度
国際ロータリーのテーマ
RCは分かちあいの心
2007～2008年度
ウィルフレッド J. ウィルキンソン

Weekly Report

創 立：1980年(昭和55年)1月10日
会 長：岩本 成郎
幹 事：西本 哲
クラブ広報委員：亀井 直人
例 会 日：毎週木曜日PM12:30～
会 場：ヒルトン名古屋
事 務 局：460-0008
名古屋市中区栄1丁目3-3
ヒルトン名古屋910号
T E L：052-211-3803
F A X：052-211-2623
M A I L：2760nagoya@mizuho-rc.jp
U R L：http://www.mizuho-rc.jp/

第1339回例会

2007年10月18日(木) 晴 第15回 職場例会

天然温泉 丸屋 玉ノ湯 (食事:「懐仙」)

司 会：渡辺喜代彦会場委員長
斉 唱：「それでこそロータリー」

会長挨拶

岩本成郎会長

職場例会職業奉仕について
一ロータリアンとしてあるべき姿一
ロータリアンは常に奉仕の気持ちを持つことが大切でありWe Service, I Serviceの両方がありますがむしろ I Service「私は奉仕する」の方がベターです。日常生活の中でいつもそんな気持ちで世間を見ることが大切とされています。その事ができるのは各自の職場があつての事、職業を大切に繁栄してこそ奉仕ができるのであります。したがってロータリアンとして時にその人が持っている職業の大切さ、これを繁栄させ大きく成長させて行く事が必要であり職業という言葉は社会人の(定職、稼業、事業、専門職務あるいは業務)をさすものであります。ロータリーは職業奉仕という言葉を使用するに当たってService(奉仕)という文字を広い意味で使っており単に事業あるいは専門業務ではなく相手のニーズと境遇に対して正当な考慮を払い、他人に対してもいつも思いやりの心を持つことを指しています。



職業奉仕は次のような言葉によって強調されています。事業及び専門業務の道徳的水準を高めること、あらゆる有用な業務は尊重されるべきであるという認識を深めること、そしてロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために業務を品位ある努力、教育をしなければならぬとされロータリアンとして大切な事は奉仕であるがそのためには職業の発展が一番必要な事と思います。

出席報告

田中隆義出席副委員長

会員72名 出席33名 (出席計算人数50名)

出席率50.0% 10月11日は補填により 88%

幹事報告

西本 哲幹事

- ・10月24日(水)熱田神宮さんへのAED贈呈式及び講習会がございます。13時40分から17時までです。場所は熱田神宮会館です。
- ・次週10月25日(木)は第2回推薦小委員会を行います。13時35分から9F「つるの間」です。出席予定者はよろしく願います。

臨時例会変更のお知らせ

名古屋北				11/23(金)※
名古屋東			11/12(月)	
名古屋守山				11/21(水)
名古屋東南				11/21(水)
名古屋名東		11/6(火)		11/20(火)
名古屋千種	10/30(火)	11/6(火)※	11/13(火)※	
名古屋大須			11/15(木)	
名古屋栄				11/19(月)◆
名古屋名南	10/30(火)◇			
名古屋昭和	10/29(月)		11/12(月)	
名古屋錦			11/13(火)※	
名古屋東山		11/8(木)		
名古屋空港	10/29(月)		11/12(月)	
名古屋清須	10/30(火)※			11/20(火)
名古屋城北	10/30(火)※			

(注) ※は休会・その他理由につきビジター受付はありません。

◆はサイン受付時間が17:00～18:00となります。

◇はサイン受付が17:30～18:30となります。

ニコボックス

田中隆義ニコボックス副委員長

- ・ 職場例会に多数参加いただきありがとうございました。

高木 勝さん

- ・ 今日からのセリーグクライマックスシリーズで中日が勝つことを祈って。

本多 清治さん

- ・ 職場例会ご苦勞様です。

岩本 成郎さん

西本 哲さん 松井 善則さん 田中 政雄さん

鈴木 圓三さん 森 恒夫さん 増田 盛英さん

布目 徳さん 佐藤 善乙さん 渡辺喜代彦さん

田口 豊さん 森 真佐雄さん 田中 隆義さん

職場例会

今回の職場例会は会員の高村さんが経営される東海市にある「丸屋 玉の湯」です。例会は近くの料理屋「懐仙」にて行われました。料理は会場委員さんに事前に試食してもらっていただけあって美味しくいただきました。

その後「丸屋 玉の湯」に移動し施設の説明を受け、温泉マッサージでリラックスできました。



会長挨拶

アフガニスタンの危険地帯でポリオと闘う米国のロータリアン



会食風景



料理



玉の湯前



玉の湯さん施設説明

3月下旬、第6560地区のガバナー、ジム・グラハム氏が、米国のロータリー・ボランティアとして初めて、戦争で荒廃したアフガニスタンを訪れました。カブールに到着すると、国連の担当者から、ホテルから外出する際には必ず国連の護衛とともに国連の車で移動するようとの指示を受けました。

「治安の悪化に対する懸念が漂っていました」とグラハム・ガバナーは語ります。「ホテルの壁は分厚く、到着する車に対しても厳戒な警備が敷かれていました。

平服姿の泊り客の中にもピストルを携帯している人たちが見えました」5日間の滞在の2日目には、泊まっていたホテルから300メートルも離れていない場所で自爆テロが発生しました。現場は、わずか15分前にグラハム氏が国連チームとともに車で通り抜けた場所でした。

米国のインディアナ州、ブラウンズバーグ・ロータリー・クラブ会員であるグラハム氏のこの旅行の目的は、政府の役人、国連および世界保健機関の担当者とともに、ポリオの予防接種を実施するために大がかりな戸別訪問を行うというものでした。

予防接種の対象となったのは、5歳未満の子供およそ730万人です。グラハム氏は予防接種担当チームの監査にあたり、必要量の経口ポリオワクチンが確保されているか、予防接種を受けた子供の数が正確に記録されているかを確認しました。

グラハム氏のチームは、戦禍の痛手も生々しいカブール周辺地域を訪問しました。また、政府と西側諸国に対抗するタリバン勢力の支配する危険地帯付近にまで足を伸ばしました。「私が訪問した地域では、綿密な記録が取られ、ワクチン投与も適量が驚くほど正確に守られていました」とグラハム・ガバナーは語ります。

アフガニスタンを訪れるまで、同ガバナーはポリオ・キャンペーンに参加したことがありませんでした。参加のきっかけは、2年前に出会った2人のアフガニスタンの子供たちでした。ギフトオブライフ命の贈り物)というプログラムを通じて、インディアナポリスで心臓の手術を受けた彼らを、妻のロバータさんとともに世話したのです。

アフガニスタンは、インド、ナイジェリア、パキスタンと並ぶ最後のポリオ常在国となっています。昨年10月、ポリオ・プラス・プログラムは、1月から4月にかけてアフガニスタンで予防接種活動を実施するための資金として、80万米ドルを調達しました。



アフガニスタン、ワルダック地方の行政官とともにポリオ予防接種の計画を検討するジム・グラハム・ガバナー(左)

今週卓話

10月25日(木)

会員卓話：馬場將嘉さん

テ - マ：「米山奨学事業」

次週卓話

11月1日(木)

卓話講師：2007～2008年度RI第2760地区R財団委員長
深谷友尋さん

テ - マ：「ロータリー財団の役割」